



あいかんきょう



2013/04/20

会報・第115号



「サハラの日の出」

撮影地：モロッコ

サハラ砂漠メルズーカで2011年1月に撮影したものです。
山の上がダイヤモンドのような輝きが幻想的です。

提供：濱地光男氏
(株)ユニケミー

四季折々

三・一一大震災以降、原発が無くなったかどうかということが気になり、エネルギーについての情報を気に留めるようになった▼最近話題のシェールガスは、地下千五百〜六千mのシェール層にパイプを打ち込み、圧力水でシェールを破壊しガスを取り出すというもので、この圧力水には、界面活性剤、塩酸（二〜五％）、腐食防止剤、スケール防止剤、殺菌剤などが含まれており、地下断層の割れ目を通じて地下水や河川水に影響を及ぼしている▼三月に、渥美半島沖で「メタンハイドレート」の取り出しに成功したというニュースがあった。日本近海での埋蔵量は日本の天然ガス消費量の百分分に相当するといわれているが、安定的に取り出す技術はこれからである▼自然エネルギーでは、風力発電が最もポテンシャルが高く、環境省の調査によると、地上・洋上の合計で十八億kwの開発可能量と推定されている。この量は電力十社の供給能力の十倍に相当するといわれているが、現状では出力合計三百万kw程度である▼遠い将来、化石燃料もウラン・鉱石も必ず枯渇する時が来る。その時に備えての、太陽を原点とする自然エネルギーの開発は重要な課題ではないかと思う。

首都圏環境計量協議会連絡会との 合同研修・交流会開催

愛環協と首都圏環境計量協議会連絡会との合同研修会を三月一日(金)に日本特殊陶業市民会館にて開催いたしました。首都圏環境計量協議会連絡会(以下、首都圏環協連という)からは、総勢十五名の方がお見えになりました。首都圏環協連は、東京都環境計量協議会(東環協)、神奈川県環境計量協議会(神環協)、埼玉県環境計量協議会(埼環協)、千葉県環境計量協議会(千環協)の四協会から構成されており、各会長、副会長、理事、事務局の方が参加をいただきました。

また愛環協からは、濱地代表理事、河野副代表理事をはじめ理事、事務局長の九名が参加いたしました。



合同研修会では、首都圏環協連の各協会と愛環協が、それぞれの年間事業活動の紹介を行い、その後ディスカッションにより情報交換を行いました。共通する課題としては、受注金額の低価格問題と環境計量業界の人材育成の課題が多く、今後の環境計量業界の新しい事業モデルにも話題は、展開しました。

入札における低価格問題に関しては、分析精度への影響も懸念される為、信頼性を維持する為に最低価格の設定を要望した結果、約九割まで導入が進んだ自治体もあり、今後は他の自治体に対しても、アンケートを実施するなど地道に要望していく必要があるとの活動報告もありました。愛知県も導入している自治体による技術レベルに関する入札業者への評価を各自自治体に対して働きかけているとの報告もありました。また発注者側の技術や知識が、やや不足しているケースがあるとの報告もありました。自治体の担当者の交代により見解が変わるとい課題については、以前に愛知県と

愛環協のワーキングで作成したガイドブックの「環境計量証明事業登録の手引き」や「環境計量証明事業者に関するQ&A」が有効であったとの濱地代表理事の紹介に首都圏環協連の方から「評価をいただきました。首都圏環協連では、技術者同士の交流を盛んに進めており、技術者の情報共有が計量上の問題解決に有効とのことでした。愛環協においても研修事業の中で同様な技術者同士が交流する機会を設けており、首都圏環協連でも有効なようです。



興味ある話題としては、大型ヨットで海水のサンプリング実技研修とともに操船を学んだり、地引網を通して会員同士の親睦を図るといユニークな事業紹介もありました。

首都圏環協連との交流によ

り、様々な事業のヒントが得られ、また互いに課題を共有することが出来、大変有意義な研修会となりました。研修会終了後には、交流会を開催し、膝を突き合わせての親睦を図りました。今後も機会があれば他府県との情報交換を行い、会員や愛知県の皆様の期待に応えられる様、より良い事業活動に生かしたいと感じました。



近年、環境問題への社会的関心が高まるにつれ、多くの環境測定が行われるようになり、信頼性の高い測定値の重要性がますます増大しています。

当協会は長年にわたり測定分析精度の向上、環境問題知識の普及等に積極的に取り組み、その活動はかねてから注目を受けてきました。このような協会の活動を一層充実させるため、微力ながらお役に立てるよう頑張つて行きたいと思えます。会員の皆様方のご指導とご協力をよろしく願います。

首都圏環境計量協議会連絡会 参加者

神奈川県				東京都		千葉県				埼玉県			県	
(株)オオスミ	(株)アクアパルス	(株)タツタ環境分析センター	ユーロフイン・フードライステイキング・ジャパン(株)	(株)環境技術研究所	いであ(株)	(株)日本公害管理センター	日鉄住金環境(株)	(株)太平洋コンサルタント	中外テクノス(株)	(株)環境テクノ	(株)環境総合研究所	内藤環境管理(株)	(社)埼玉県環境検査研究協会	所属会社
大角武志	増田健一	升水道弘	三浦明	中村勉	鈴木幹夫	松倉達夫	内野洋之	野口康成	甘崎恭徳	永沼正孝	吉田裕之	鈴木竜一	野口裕司	芳名

(敬称略)

研修会聴講記

大気・臭気WG 勉強会に参加して

株東海分析化学研究所

試験課 小田 麻未

平成二十五年二月十五日に開催された「大気・臭気WGの勉強会」に参加しました。

今回は、株式会社島津製作所の針谷哲三氏による、「正確に秤量するための方法について」という内容で、電子天びんの種類、質量測定における誤差要因、天びんの故障原因の症状と対策、天びんの日常点検・定期点検やメンテナンス、JCSSのトレーサビリティ等についての講義でした。



特に興味を持ったのは、質量測定の精度に及ぼす誤差要因についてでした。これまで、温度や気流の変化により数値が不

安定になるのは知っていましたが、それ以外にも使用地の重力加速度によって誤差が生ずるの

は知りませんでした。したがって、正しい質量を測定するには、据え付ける場所で校正を行わなければならないとのことでした。同じ日本でも緯度の違いで誤差が生じるので、とても繊細な機器であると思いました。

また、静電気による影響や台風や地震による環境による自然的な影響も問題であることがわかりました。講義を聞いて、測定精度には、多くの要因が関与しており、本当に正確に測定するのはとても難しいことであると改めて感じました。

普段の実験においても、部屋の温度やエアコン等の気流の有無などの影響が最低限少なくなるように気を付けて使用していきたいと思います。

また、トレーサビリティについては、定義として「測定結果が国際または国家標準のような適切な標準に対して切れ目のない比較の連鎖によって関連付けられる性質」であり、天秤がトレーサブルであるといえるための要件が二つ挙げられました。

①天秤の校正に使用した分銅、その分銅の校正に使用した分銅：…というように上位にたどっていくと国家標準まで辿り着けること。

②校正の過程において、校正に使用した標準(分銅)の「不確かさ」を考慮に入れ、かつ校正結果としても「不確かさ」を表すこと。

計量事業を行う上で、校正機関に定期的に校正してもらい、常にトレーサビリティが保証されているように管理していかなければなりません。定期的な機器点検をしっかりと行い、精度よい計量を実施していかなければならないと感じました。



低周波音共同実験 結果勉強会を開催して

愛環協技術委員会
騒音振動WG

幹事 渡辺 敏紀

技術委員会騒音・振動ワーキンググループ(WG)では、昨年十二月六日(株)ユニチカ環境技術センターで実施した低周波音共同実験の結果勉強会

を十九社二十四名の参加をもって日本特殊陶業市民会館で開催しました。日環協との共催ということもあり、静岡県、岐阜県や三重県など他県からの参加者もお越し頂きました。

まず、各社の実験結果をパワーポイントで紹介し(紙ベースでも配布)、この結果から何がわかるか、何が言えるのかを聞き出すやり方を進めるつもりでしたが、振り返ってみると一人でべらべらとしゃべってしまったと後悔しています。その後WG委員から一言づつ考察や体験談を述べてもらうと、参加者から積極的な質疑が出るようになり、大変有意義な二時間の勉強会だったと思います。

参加者は、初めは自社の実験結果が他社と比べてどうなのか、超低周波音域におけるデー

タのばらつきの原因が風の影響であることが大勢の意見として示されるとほっとしたように見えました。

まとめとして、低周波音の測定は、①風の影響を受けない地面近くで、②風の影響がない朝夕など気象情報を得、③瞬時値のタイミングを数多く体験し、④以上を踏まえて再現性に自信を持つこととしました。

今後の課題としても低周波音の暗騒音との比較、低周波音防風スクリーンの風の影響の調査や当スクリーンの自作の提案などもあり、今後も勉強することとは数多いと感じた次第です。最後に、二十五・二十六年度の当WG委員への参加の募集を行い、勉強会を閉会としました。

事務局からのお知らせ

・平成二十五年年度通常総会

平成二十五年五月十七日(金)

プリンセスガーデンホテル

・環境測定分析新任者研修会

平成二十五年六月四日(火)

ウイנקあいち

・環境月間講演会

平成二十五年六月十一日(火)

日本特殊陶業市民会館

皆様の参加を

宜しくお願いたします。

委員会等活動報告

総務委員会

委員長 河野 達郎

一月三十一日に委員会を開催しました。

①環境に関する喚起標語の選出

十二月に募集を行い、百五十九作品の応募の中から入選一作品、佳作十作品を決定しました。

②景況に関する意識調査

十二月に実施し、五十五社から回答がありました。調査結果を集計・解析し、報告書にまとめ、広報誌に掲載することとしました。

③功労者の推薦

愛知県環境保全関係功労者、愛知県計量関係功労者及び環境計量士功労者の推薦を行いました。

④二十五年取支予算書案

委員会にて内容を確認し、理事会上に上程しました。

⑤役員改選人事

二十五・二十六年年度の役員人事に関する意見調整を行い、案を理事会上に上程しました。

⑥合同研修会

首都圏環境計量協議会連絡会からの要請で、研修会及び交流会を三月一日に開催しました。

企画委員会

委員長 柴田 金作

二十四年度の活動は、①協会が主催する各種講習会への積極的応援、②どのような研修・講習会を希望しているかの調査実施でした。

テーマ①②ともに今年度も継続して取り組んでいくことにしております。また、協会ですべての『環境月間』の催しに対しても当委員会として積極的に応援していきたいと考えております。

教育・研修委員会

委員長 大野 哲

SOP（標準作業手順書）研修会を一月二十九日に開催し、参加者は十二名でした。株ユミケミー 中安史隆氏の講義によりSOPの役割の重要性を学び、実際のSOP作成演習ではワークショップ形式で議論を交わしながら有意義な研修会となりました。六月には新任者研修会を予定しております。皆さんのご参加をお待ちしております。

広報委員会

委員長 西脇 光正

二月二十六日に委員会を開催し、広報誌第二五号の掲載記事について協議しました。また、六月に予定している「環境月間講演会」について、演題を今話題のPM2.5とし、演者選定をすることとしました。

対外交流委員会

委員長 宇野 孝

三月七日に委員会を開催し、二十四年度事業の総括と今年度活動計画の検討を行いました。今年度については、昨年度と同様に、近隣地域での施設見学会を行うこととし、理事会承認後、詳細検討に入る計画です。なお、実施時期は秋ごろを予定しています。また、五月に開催される愛環協の通常総会における特別講演の講師候補者について、種々検討を行いました。

ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

委員会を十二月二十一日、二月二十五日に開催し、また更新作業を委員会同日及び十一月三十日、二月五日に実施しました。委員会では協会ホームページのメンテナンス作業の標準化の検討結果を基に更新手順書の検討を行い、協会ホームページ（第一版）が完成しました。今年度は、更新のルールや個別のテクニク集等、協会ホームページ手順書の更なる充実を進める予定です。

災害緊急時対応委員会

委員長 鎌田 務

今年度の活動として、愛知県と結んだ「災害時における化学物質の調査に関する協定書」に基づく協力事業所名簿の作成及び緊急連絡網の整備を行う計画であり、具体的な災害時における実務対応マニュアルの作成も進める予定です。

ブロック会議報告

第一ブロック

ブロック長 宇野 孝

二月十四日に九社十三名の参加で行いました。はじめに二十四年度下期の事業経過と行事予定を報告し、続いて二十五・二十六年度のブロック長の改選に関して意見交換を行った結果、満場一致で再任となりました。次に、事務局から研修会の案内や会費の納入方法の変更等について説明がありました。その後は、情報交換の場となり、県の立入り検査の話やPM2.5の話題で盛り上がり、会議終了後は、有志による恒例の懇親会となり、用意したおいしい日本酒を存分に堪能しました。

第二ブロック

ブロック長 鎌田 務

二月五日に、二十社中十二社の参加で行いました。最初に二十四年度第三回、四

回理事会の内容報告を行い、次に、平成二十五・二十六年度のブロック長についての意見を伺ったところ、現ブロック長の留任で決まりました。

会議終了後の懇親会では、十一名の参加で意見交換を行いました。

第三ブロック

ブロック長 柴田 金作
二月十三日に六社六名の参加で行いました。

まず理事会での事業報告並びに各委員会の報告をし、次に二十五・二十六年度のブロック長選出を行いました。

ブロック長には引き続き現ブロック長が行うことで決まりました。会議終了後は参加者と情報交換を主目的とした懇親会を楽しく行いました。

第四ブロック

ブロック長 豊田 豪
二月十二日に十三社中五社の参加で行いました。

会議の内容は第三回、四回理事会の報告を行い、次期ブロック長の選出においては、引き続き現ブロック長が務めることに決まりました。

第五ブロック

ブロック長 大野 哲

最後に事務局からの連絡事項、質疑応答を行い終了しました。

二月八日に十八社中十二社の参加で行いました。二十四年度の事業経過と各委員会報告及び次年度のブロック長の選出を行いました。

賛助会員紹介

株式会社 堀場製作所

環境・プロセス
営業担当 副部長 梅井 勝

堀場製作所は、分析・計測機器の総合メーカーとして、世界各国で自動車の研究開発、プロセスと環境の計測、生体外の医療診断、半導体製造・測定をはじめ、科学研究開発や品質測定など幅広い分野での機器やシステムを提供しています。

とくに環境分野では、大気汚染監視、放射線測定、水質計測、工場廃水、排ガス分析装置、材料中有害物質分析装置など、多様な分野での環境に直結する項目の分析計測装置を提供し、セットアップやトレーニングなどを含め、設計から据え付けまであらゆる環境プロセスモ

ニタリングのソリューションを提供します。

【大気汚染監視への取り組み】
堀場製作所の大気汚染監視

また「いまさら聞けない事業登録の手続きについて」と題して自主勉強会も行いました。会議終了後、懇親会を開催し交流を深めることができました。

用分析計は、ppbレベルでの長期安定性と精度に優れた信頼性の高い分析計として、フィールドで高く評価いただいています。

人体への影響が懸念されるPM2.5（微小粒子状測定物質）測定装置APDA3570 Aシリーズは、大気汚染の原因となるさまざまな成分を連続モニタリング。世界的にも注目されている環境基準の変化にも的確に対応し、自治体や事業所による大気監視計測を目的として広くご利用いただいています。

【ガス計測への取り組み】
堀場製作所のガス計測器は、工場や発電施設から排出されるガスを連続監視する「煙道排ガス分析装置END A5000 シリーズ」でトップシェア。連続分析に不可欠なサンプリングシステムは高い応用設計技術力で評価をいただいています。また、ポータブルガス分析計PG300

0シリーズは二〇一一年度グッドデザイン賞を受賞。「ガス（煙）の発生源にどこにでも持ち運びが出来る機動性、複数の分析機器を必要とせず一台で高精度に最大五成分の同時測定を可能にするという企画コンセプトを、コンパクトで板金と樹脂の一体感のある筐体にうまくまとめて体言している」という高い評価をいただきました。

プロセス管理においては、国防爆認規格に適合する防

爆型分析計をはじめ、サンプリングシステム設計など応用技術とともに各種プロセス計測に対応します。電力、鉄鋼、石油化学、石油精製、製紙、食品、医薬などで広くご利用いただいています。



ポータブルガス分析計 PG-300シリーズ

【放射線測定について】

堀場製作所の環境放射線モニタPA1000は、公園や街頭などの自然界に存在する放射線を数値化する製品です。低レベルの放射線を、はかることを体験し、理科の面白さを

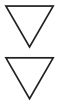
わかる機会を提供する環境教育用モニタとしてご利用いただいています。

また、通信機能を搭載し、データの自動記録が可能な「通信機能付 環境放射線モニタ PA1000」の開発にも成功し、従来製品からの使いやすさはそのままに、測定範囲を二倍に拡大しました。

【水質計測への取り組み】

HORIBAグループの水質計測器は、水質の基本指標であるpH計をはじめ、環境域で水質汚濁を監視する自動全りん・全窒素測定装置や、各種産業のプロセスにおける水の純度管理に必要な導電率計、比抵抗計など幅広くラインナップしており、電力、ガス、石油化学、鉄鋼、製紙、食品、医薬などの産業や、各自治体で広くご利用いただいています。

各現場プロセスでの厳しい環境条件に対応するために、堅牢性、機能性、保守性をキーワードに開発された工業用水質計H11シリーズは、堅牢なアルミダイカストケースを採用。耐久性性能、オート校正、各種自己診断機能の強化に成功し、豊富なインターフェースなど水質管理をするための多様な必要条件を満たしています。



測定機関紹介



株式会社 三進製作所

研究開発室 松田 健次

◆会社概要

弊社は一九四八年の創立以来一貫して「水処理」を通じてお客様の産業を「環境にやさしいもの」にするお手伝いをさせて頂いております。ろ過・排水処理・リサイクルを事業の柱に、工業用ろ過装置、排水処理装置、リサイクル装置の開発・設計・製造・販売・アフターサービスを行っております。また、分析・計量証明、各種水処理試験もっております。



社屋(犬山工場)

弊社の歴史は、創業者・柳下芳輝が戦時研究員として戦争を体験し、飲料水の重要性を痛感して、飲料水用ろ過機の開発製造を手掛けたことから始まりました。その後、自転車製造会社から、めっきで使用する液体のろ過が出来ないかという要

望を受け、一九五〇年に日本初のめっき用ろ過機を開発し、以来、工業用ろ過機のパイオニアメーカーとして現在に至ります。

弊社は発明家かつ技術者であるという創業者の教えから、常に独創的なアイデアで、他に真似できない製品開発を行ない、今年で創立六十五周年を迎えます。今後ともこれまで培ってきた発想と技術を次世代に伝承し、社是「すべてムタなくキレイにしよう」のもと、地球規模で拡大する環境問題に対応できる新たな装置の開発に取り組んでいます。

◆資源回収システム事業

一九七六年に、めっき水洗工程において洗浄水の精製、循環利用に使用したポンベ型イオン交換機の再生および再生溶離液に含まれる金属の回収再利用を目的に弊社の工場内に「資源化センター」が設立されました。同年にポンベ型イオン交換機の販売を開始し、以来、全国のお客様を対象に年間六千本以上のポンベ型イオン交換機の引き取り再生を行っております。

資源化センターでの資源回収システム事業は、資源環境や環

境負荷に関する優れた事業として、二〇〇七年に愛知環境賞・銀賞を受賞しました。二〇〇九年には愛知県より先導的・効果的リサイクル事業に採択され、二〇一〇年に資源化センターの設備を増強して、更に高機能化された資源回収システム事業を開始しました。更に高機能化された事業では、従来スラッジとして山元製錬所で再資源化していた銅・ニッケルを電析装置により金属箔として回収、再資源化できるようになりました。

更なる資源回収効率の向上と廃棄物量の削減に貢献したことで、あいちエコタウン施設にも認定されました。

二〇一二年一月には「ポンベ型イオン交換機によるめっき水洗工程のクロオズド化システムと資源リサイクルセンターによる金属資源回収」が資源循環技術・システム表彰において「産業環境管理協会会長賞」を受賞しました。



資源化センター外観

◆研究開発室

私の所属している研究開発室について紹介します。研究開発室では、開発と分析に担当が分かれています。

開発では新製品の開発および既存製品の改良改善を行っています。分析では、計量証明等の分析、ろ過試験、排水処理試験を行っております。

計量証明等の分析では、工場排水の計量証明分析や弊社製品に係る分析を行っています。ろ過試験では、ろ過機の導入を検討しているお客様から、ろ過対象液を提供してもらい、試験を行います。試験は、弊社ろ過機に使用しているろ布を用いて、ろ過性などの過特性を調査し、ろ過方法を決定します。試験結果から、弊社ろ過機の適用の可否を判断します。



機器分析室

排水処理試験では、ろ過試験と同様に排水処理の新設を計画しているお客様の排水を提供

してもらい、ピーカーテストを行い、該当地域の排水基準値以下になるような条件を見出し、排水処理試験は、試験結果を基にして、お客様への提案処理フローを決めますので、最初の取り掛かりのため重要です。

近年、めっき技術の発達に伴い、排水に含まれる成分が複雑化してきていることから、従来から行われている処理では、排水処理が難しくなっています。そこで、酸化処理などを組み合わせ、排水基準を満たすような処理フローを提案しています。

◆社内イベント

毎年四月に新入社員を歓迎するお花見バーベキューが開催されます。社員旅行では部署の垣根を越えて和気あいあいと交流を深めます。年間を通してクラブ活動も盛んで、フットサルやゴルフや釣りの他、文化系クラブも多数あり、趣味を通して親睦を深めております。



社員旅行

◆◆◆ 趣味のコーナー ◆◆◆

「お茶会」

（二財）東海技術センター

市川 ゆかり

三月三日に「なおい茶会」に行ってきました。（写真1）稲沢市国府宮神社にて毎年はだか祭の翌週末に行われているお茶会で、「儼追（なおい）」の二行事として催されています。このお茶会では、神男が三日三夜、お籠りをした儼追殿で、お茶をいただくことができます。あとで聞いた話ですが、この儼追殿は、このお茶会後の翌週に建て替えのために取り壊されたそうです。ここでお茶がいただける最後の機会となりました。



写真1

当日は、風の冷たい日でしたが、陽射しは温かく少し春を感じることができました。入口で当日券を購入し、建

物へ。受付を済ませ、身支度を整えます。お茶席には大きな荷物を持っていけないので、扇子と懐紙と貴重品だけを持ち、あとはすべて預けます。まずは、十〜二十名ずつ小間に通されます。そこで宮司さんによるお祓いを受けます。その後廊下をぬけて拝殿へ。ここで、お参りをしたのちお菓子席の順番待ちをします。通常は、長い列になり、この拝殿でかなりの時間待つこととなります。板の間に正座して待つので寒い日だったりすると、つらいです。今回、私は少し遅い時間に行ったためその場で待つことはなくお参りだけをさせていただきました。お菓子席としてコの字の長い部屋に椅子が並べられています。普通、お茶会ではお茶をいただく席でお菓子もいただくことが多いのですが、なおい茶会では別室でお菓子がいただけれます。席に着くと干支の刻印のある絵馬にお菓子がのせられてきます。毎年この刻印の柄はどんなのかとみるのが楽しみです。今年のお菓子は春らしいピンクの煉りきりでした。

しつとりとした生菓子でとても美味しかったです。（写真2）お菓子席にはいろいろな種類の椿が飾られていて、お菓子をいただきながら花を愛でることが出来ます。昔ながらの可憐なものから、最近の品種でしょうか、カタカナの名前でとても艶やかな椿も生けられています。



写真2



写真3

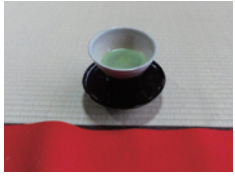


写真4



写真5



写真6

お菓子をいただくといよいよお茶をいただくために儼追殿にお参りします。大広間に赤い毛氈が敷かれておりそこに座ってお茶をいただきます。せつかくなのお点前の見やすい席がよいのですが、大勢の人が入るのでどんな席につけるかは時の運です。今年はなかなかよい席につくことができませんでした。（写真3）神社ということなのでお点前をするのもお運びをするのも緋色の袴をはいたお弟子さんたちで、とてもかわいらしいです。当時の私にはチャンスがなかったのですが、やってみなかったなと思ってしまうかもしれません。お点前が始まる

とほどなくしてお茶が運ばれてきます。人が多いのでお運びも大変そうです。自分がお手伝いしていたころを思い出し、慣れないお弟子さんを見ると、頑張れ！と心の中で応援してしまいます。

なおい茶会では、お茶は貴人台につけてきます。（写真4）私は、いつもいただきかたに迷ってしまいます。貴人台が使われるときの作法は、最初の一口目は台ごと持ち上げていただき、あとはお茶碗だけを持っていただきますが、お茶碗は台に乗っているだけで台ごと持ち上げるときはひっくり返してしまいそうです。少し緊張します。それでも、久しぶりのお抹茶を堪能しました。

お茶をいただきおかわる頃にはお点前もほぼ終わってしまいました。ゆつくりお点前を見ていたかったのでちよとがっかり。

席が終わるとお道具を拝見しました。はだか祭のお茶会らしく、裸男の環掛のお釜であったり、御軸がはだか祭の絵で

あったりしました。今年は、宝物として織田信長由来の獅子面が飾ってありました。（写真5・6）

最後にお餅となおい布をいただいで帰ります。献花席といて生け花の席も同時に開催されていました。昔ながらの古典の作品だけでなく最近のスタイルの作品があり華やかでした。

ほんの二時間ぐらいたった気が思いますが、お茶を習っていたころの大満足でした。私はお茶席の雰囲気が好きです。あの空間では、普段の忙しい生活を一瞬でする気がするからです。当然、おいしいお抹茶とお菓子がいただけられるのですが、今ではすっかり遠のいてしまい、お点前をするどころかお茶会に行くことすらなくなってしまうかもしれません。今後は、気兼ねせずに行けそうなお茶会を探して、少しでもお茶を楽しむ機会を増やしたいと思っています。

平成二十四年度 景況調査結果

総務委員会

委員長 河野 達郎

平成二十四年度の景況に関する意識について、平成二十一年度から継続して調査を実施しました。調査対象は七十五社、回答数は五十五社、回収率は七十三%、その結果概要を報告します。

①受注状況（平成二十四年四月～十二月）

業績が良くなったのが十三%（七社）と昨年とほぼ同じであり、業績が昨年とほぼ同じは六十%と昨年の四十三%より増加しました。受注が増加した要因としては、受注件数の増加、新規顧客を獲得、がありました。が、昨年度の要因にあった新規事業の拡大は要因にありませんでした。

一方、受注減少は合計で二十五%と昨年の四十五%よりかなり減少していました。また、受注減少の要因は、価格の下落、受注件数の減少、があげられていました。

表1 受注状況とその要因

受注状況	結果	要因(割合)
増加	13%(7社)	受注件数増加(78%) 新規顧客拡大(22%)
ほぼ同様	60%(33社)	
減少	25%(14社)	価格の下落(29%) 受注件数の減少(39%) 競争の激化(18%) 入札方式の変更(11%)
分からない	2%(1社)	

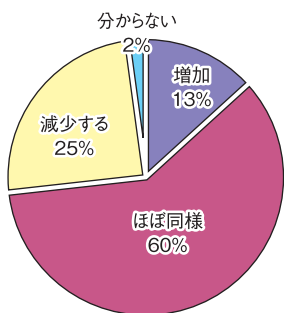


図1 受注状況

表2 事業見通し

事業見通し	結果
増加する	9%(5社)
ほぼ変化なし	52%(29社)
減少する	35%(19社)
分からない	4%(2社)

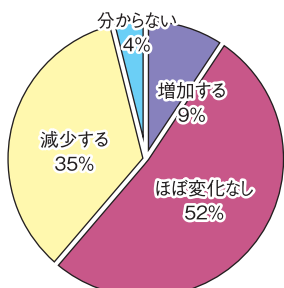


図2 事業見通し

②業績見通し（平成二十四年度）
受注状況を踏まえた二十四年度業績見通しは、増加するが九%（五社）と昨年の四%より若干増え、減少するが三十五%（十九社）と昨年の四十五%から若干減りました。

③受注状況DI

受注状況DI指標とは、受注状況の全体傾向を数値として表すもので、次の計算式から算出されます。

DIⅡ（増加+ほぼ同様）の割合Ⅰ（減少+大幅に減少）の割合
その結果、平成二十四年度の測定分析部門の受注DI指標は、〇・二三でした。

過去四年間の測定分析部門の受注DI指標を左記に紹介します。

表3 受注状況DI

平成21年度	-0.30
平成22年度	0.20
平成23年度	0.10
平成24年度	0.22

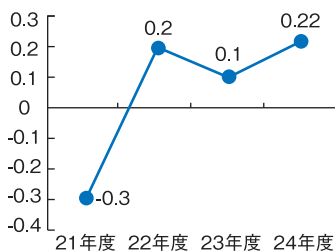


図3 受注状況DI

昨年の〇・一〇から、〇・二三とかなり景気の回復傾向が見られました。しかし、業績見通しにおいて昨年とほぼ変化なしが五十二%を占め、明確な景気の回復というよりも足踏み状態にあるといった方が確と思われました。

また、景況状況に関する意見では、分析単価の下落に歯止めがきかない、震災関連の受注量がカバーしている、といった現実的なご意見を多数いただきました。

今後もこの景況調査を継続実施し、愛環協の運営に反映させていきたいと思います。

発行人 (一社) 愛知県環境測定分析協会
代表理事 濱地 光男
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (一社) 愛知県環境測定分析協会
広報委員会